



# 鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第126号

2023年11月7日

## OECM 自然共生サイト 122カ所を認定 関西定例研究会では事業について詳細に説明

環境省は、このほど「自然共生サイト」122カ所を認定した。「自然共生サイト」は、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域で、自然共生サイトに認定されるためには、企業、団体・個人、自治体が申請主体となり、環境省が審査し、認定する。対象となる区域は、企業の森、ビオトープ、里地里山、水源の森、社寺林などから森林施業地、都市公園、ゴルフ場、スキー場などまで、多彩な対象を想定している。こうした場所のうち、生物多様性の価値を有し、企業、団体・個人、自治体による様々な取組によって、本来目的に関わらず生物多様性の保全が図られている区域であり、①範囲が分かること、②所有者・管理者が分かること、③生物多様性の価値が分かること、④管理内容が分かることが求められる。

今年度前期は4月から申請受け付けが始まり、事務局による予備審査を経て8月の有識者審査、10月6日に35都道府県の122ヶ所が認定された。後期は、10月13日に申請を締め切り、来年2月頃の認定を予定している。

社叢学会では、昨年来、いち早く30by30アライアンスに参加し、ワーキンググループを中心に学会としての関わり方について検討を重ねている。

特に、社叢学会としての役割が期待されるのは上

記の③と④で、価値判断基準や管理内容の評価基準の策定に、社叢の保護管理に取り組んできた社叢学会の知見が求められている。また、こうしたモニタリングを手掛ける人材も不可欠で、これには社叢インストラクターの活躍が期待される。

こうした観点から、まず、OECMや30by30、自然共生サイトなどについて、総括的な地域を得るために、第91回関西定例研究会講師に環境省近畿地方事務所の徳丸久衛・生物多様性保全企画官を招き、そもそものスタートであるCOP15と、それを受けた「昆明・モントリオール生物多様性枠組」から、京都における取組まで、詳細にわたる解説を聞いた。

今後の課題として、自然共生サイトに認定された地域に、その申請事務や現地管理に対してどのようなインセンティブを与えるかで、定例研究会でコメントを務めた森本幸裕副理事長も、日々、社叢管理に苦勞し、また尽力している社寺に報いる方策が必要であることを指摘した。

令和5年度前期「自然共生サイト」認定結果は本紙3面にも掲載したが、詳細は<https://www.env.go.jp/content/000163854.pdf>で、個別地域の概要は、<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/kyousei/nintei/index.html>に。

## 次回予告【第92回関西定例研究会】

- ◆日 時：11月18日(土) 13:00~15:30
- ◆会 場：吉志部神社(吹田市岸部北4-18-1 TEL: 06-6388-5735)
- ◆テーマと講師：
  - ① 社叢の保全とOECM登録  
森本 幸裕(社叢学会副理事長・京都大学名誉教授)
  - ② 吉志部神社の社叢を含む紫金山公園の里山管理(講義とモニタリング実習)  
武田 義明(社叢学会理事・神戸大学名誉教授)



## <OECM>30by30 と社叢の役割 —京都寺社「自然共生サイト」認定への取り組み—

講 師：徳丸 久衛(環境省近畿地方環境事務所生物多様性保全企画官)

COP15(22年12月7日～19日モンテリオール)では、2030年までの新たな世界目標である「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」が採択された。これは、2050年のビジョンとして「自然と共生する世界」を設定し、この実現のために2030年のミッションとして、必要な実施手段を提供しつつ、生物多様性を保全するとともに持続可能な形で利用すること、遺伝資源の利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分を確保することにより自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとるということが設定された。

今回の研究会では、OECMや30by30について、その概要や、環境省の取り組みなどを聞いたが、今号では特に京都での取り組みについての部分を掲載する。

**日本は生物多様性ホットスポット** 生物多様性ホットスポットは世界に36ある。地球の陸地のわずか2.4%だが、そこにはここにしかない植物の50%、両生類の60%、爬虫類の40%、鳥類・哺乳類の30%が生息している(コンサベーション・インターナショナル、2017年現在)。日本は古来、人と自然が近く、里地里山や社寺林のように、生産や信仰のために管理されることで生物多様性が守られている場所が多い。

30by30の取り組みは、欧米型の自然保護ではなく、日本らしい自然との共生の考え方にもとづく保全の在り方を世界に発信するチャンスだろう。

**京都での取り組み** 特に京都には社寺が多いので、先ず京都仏教会に事業への参画を求めたのだが、はかばかしい協力を得られなかった。そこで、自然環境文化推進機構(代表理事：山折哲雄)に連携協力を求め、これを通じて京都仏教会や京都府神社庁からの協力を得るという枠組みを作った。

その一方で、個々の寺社に、庭や堀の生物多様性を向上させるためのネイチャー・ポジティブ・プロジェクト案の具体案を提案している。具体例として、裏山で国蝶オオムラサキが舞う三千院では、現況の保全に加えて、モリアオガエル、アカハライモリなど水辺の希少な生きものの楽園づくりが、建仁寺では松林の松虫、邯鄲、鉦叩き等々の合唱が聴こえるが、江戸時代からの「虫聴き」の名所で、この伝統を復活させる。東寺では、外来種を適正管理した上で、和の生き物の復活を図り、石亀や目高が泳ぎ、翡翠が舞うお堀端を創出する、などを提案している。

**自然共生サイトの活用案** 自然と伝統文化の学びと体験の場とすることを目標に、自然共生サイトに指定された寺社を、自然を学び、日本の伝統文化を体験するシンポジウムやセミナー、イベント、ツアー等の場として活用することも考えられる。例えば歌

会や薪能、茶の湯を体験したり、蛙や蟬や秋の虫を聴いたり、京菓子や京漬物、京料理を味わう、また、庭の草花、鳥、蝶、亀、虫などの生物を学ぶ、自然の花と生け花を見る、祈りと哲学の世界に浸る、などだ。これによって人々が自然の恵みの大切さを知り、持続可能な暮らし方をはじめめる契機とならないだろうか。これは、国連の提唱するSDGsの推進にも貢献することになる。

さらに「万物多様性セミナー、交流会」の開催も考えられる。産・官・学の多様な有識者による講演、セミナー、産・官・学マッチングのための交流会などで、ここからネイチャーポジティブ・ビジネスを発信することも考えられる。日本の伝統文化と自然環境の保全を融合させたビジネスを模索し、試行し、創出する。現在の自然共生サイトは良好な自然の区域を対象としているが、それだけではネイチャーポジティブにならないので、さらに都市を含む劣化地の自然を再生するプロジェクトも認定していきたい。これによって、豊かな経済を持続させるための新たなモデルを打ち立てていく。

**令和5年度の取り組み** ①企業の協力を得た事業体制の整備：運営資金、寺社の調査費・モニタリング費、認定寺社の支援資金等について、企業団体の支援を得る ②学識者・有識者への協力依頼：候補寺社での自然調査、認定後のモニタリング計画の策定、自然・文化的活用方針等について助言を得るため、アドバイザーグループを設置する ③候補寺社の選定、事前説明、概況調査：目下のところ、三千院、東寺、東本願寺(涉成園)、西本願寺(飛雲閣)、建仁寺、金戒光明寺、醍醐寺、相国寺、浄瑠璃寺、桂林寺、松尾大社、北野天満宮、城南宮等で取り組みを進めている。

**藤袴と和の花展を見学** 講演の後、佐藤正吾・京都市都市緑化協会事務局長と岩瀬剛二氏(いのちの森モニタリンググループ)等の案内・解説で、「いのちの森」と、「朱雀の庭」で開催中の「藤袴と和の花展」を見学した。いのちの森には、京都の年越しを彩る「をけら詣り」に欠かせないオケラや様々な山野草が、また、朱雀の庭には自生種のフジバカマに加えて、牧野富太郎ゆかりのムジナモや京都周辺の希少植物などが展示され、秋晴れの元での観察と散策を楽しんだ。



No	サイト名	所在地	No	サイト名	所在地
1	マテリアルの森 手稲山林	北海道	64	住友ベークライト(株) 静岡工場ビオトープ 憩いの杜	静岡県
2	出光興産(株) 北海道製油所	北海道	65	住友不動産の森	静岡県
3	渡邊野鳥保護区フレシマ	北海道	66	サントリー天然水の森 しずおか小山	静岡県
4	歌才湿原	北海道	67	(株)テクノ中部 本店ビル屋上ビオトープ	愛知県
5	添別ブナ林	北海道	68	鳥川ホタルの里	愛知県
6	北海道大学雨龍研究林	北海道	69	人間環境大学 岡崎キャンパス演習林	愛知県
7	生花の森	北海道	70	東知多工場バードピア	愛知県
8	積水メディカル岩手工場	岩手県	71	トヨタテクニカルセンター下山	愛知県
9	「仙台ふるさとの杜再生プロジェクト」の海岸防災林	宮城県	72	びおとーぶ堤	愛知県
10	所さんの目がテン! かがくの里	茨城県	73	トヨタの森	愛知県
11	つくばこどもの森保育園	茨城県	74	ビオトープながおか	愛知県
12	つくば生きもの緑地 in 国立環境研究所	茨城県	75	豊田合成 平和町工場ビオトープ	愛知県
13	戸田建設 筑波技術研究所	茨城県	76	知多半島グリーンベルト	愛知県
14	横浜ゴム(株) 茨城工場	茨城県	77	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)幸田サイト	愛知県
15	モリ田守センター	栃木県	78	吉崎海岸自然共生サイト	三重県
16	サントリー 天然水の森 日光霧降	栃木県	79	亀山里山公園 (通称:みちくさ)	三重県
17	モビリティリゾートもてぎ	栃木県	80	羽根の森	三重県
18	サンデンフォレスト	群馬県	81	トヨタ三重宮川山林	三重県
19	尾瀬(尾瀬ヶ原・尾瀬沼・尾瀬戸倉山林、東京電力リニューアブルパワー(株)所有分)	群馬県	82	叶 匠寿庵 寿長生の郷	滋賀県
20	トトロの森	埼玉県	83	奥びわ湖・山門水源の森	滋賀県
21	飯能・西武の森	東京都	84	パナソニック 草津工場 「共存の森」	滋賀県
22	天覧山東谷津・ほとけどじょうの里	埼玉県	85	太陽生命くつきの森林	滋賀県
23	TOPPANホールディングス(株)総合研究所	埼玉県	86	積水樹脂物流センター 生物多様性保全エリア	滋賀県
24	植草共生の森	千葉県	87	サントリー天然水の森 近江	滋賀県
25	下田の杜	千葉県	88	積水樹脂滋賀工場 生物多様性保全エリア	滋賀県
26	NEC我孫子事業場(四つ池)	千葉県	89	武田薬品工業(株)京都薬用植物園内の樹木園	京都府
27	君津グリーンセンター(旧樹芸林業試験場)	千葉県	90	新梅田シティ 新・里山	大阪府
28	竹中工務店 技術研究所 調の森 SHI-RA-BE®	千葉県	91	新ダイビル堂島の杜	大阪府
29	グリーンポート エコ・アグリパーク	千葉県	92	関西国際空港島 人工護岸 藻場サイト	大阪府
30	三井住友海上駿河台ビル及び駿河台新館	東京都	93	阪南セブンの海の森	大阪府
31	大手町タワー	東京都	94	エスベックバンビの里	兵庫県
32	東京ガーデンテラス紀尾井町 光の森	東京都	95	神戸の里山林・棚田・ため池	兵庫県
33	ホトリア広場	東京都	96	ランチ神戸学園都市 チガヤ群落	兵庫県
34	大日本印刷(株) 市谷の杜	東京都	97	兵庫県立 尼崎の森中央緑地	兵庫県
35	清水建設「再生の杜」	東京都	98	コウノトリ育む祥雲寺水田	兵庫県
36	下丸子の森	東京都	99	コウノトリ育む中筋の里地里山	兵庫県
37	杉並区立遅野井川親水施設	東京都	100	サントリー天然水の ひょうご西脇門柳山	兵庫県
38	八王子市長池公園	東京都	101	細尾の棚田、池沼植物群落	兵庫県
39	ICU三鷹キャンパスの森	東京都	102	陽楽の森	奈良県
40	日立製作所国分寺サイト 協創の森	東京都	103	花王(株)和歌山工場	和歌山県
41	大林組技術研究所雑木林	東京都	104	鳥取県八頭船岡環境保全エリア	鳥取県
42	長谷エテックセンター	東京都	105	南部町の里地里山ビオトープ	鳥取県
43	サントリー天然水の森 とうきょう秋川	東京都	106	アサヒの森 甲野村山	広島県
44	オーズガーデン	東京都	107	橋本山林(経済性と環境性を高い次元で両立させる自伐林業による多間伐施業の森)	徳島県
45	つなぐ森	東京都	108	愛媛県今治市織田ヶ浜海岸	愛媛県
46	E N E O S (株) 根岸製油所 中央緑地	神奈川県	109	住友化学愛媛工場 御代島	愛媛県
47	AGC(株)AGC横浜テクニカルセンター鶴見線沿いエリア	神奈川県	110	王子の森/木屋ヶ内山林	高知県
48	ホトケドジョウのビオトープと雑木林	神奈川県	111	北九州市響灘ビオトープ	福岡県
49	野比かがみ田緑地	神奈川県	112	対馬もりびとの森(貝口スス山)	長崎県
50	葛葉緑地(くずはの広場)	神奈川県	113	明治グループ自然保全区 くまもと こもれびの森	熊本県
51	YKKセンターパーク ふるさとの森	富山県	114	阿蘇グリーンストックトラスト地(駅裏/1区)	熊本県
52	中バの森 高岡	富山県	115	阿蘇グリーンストックトラスト地(三角地/2区)	熊本県
53	柞の森(クヌギ植林地)	石川県	116	Present Tree inくまもと山都	熊本県
54	日本製紙 鳳凰社有林	山梨県	117	田島山業×みんなの森プロジェクト	大分県
55	Workcation Place 花伝舎	長野県	118	九州電力社有林(大分県:平治岳周辺)	大分県
56	シャトー・メルシャン 椀子ヴィンヤード	長野県	119	大栄環境 宮崎三股山林	宮崎県
57	中央可鍛工業 ひるがの高原の森	岐阜県	120	東洋紡「綾の森」	宮崎県
58	リコーえなの森	岐阜県	121	アマミノクロウサギ・トラスト 3号地	鹿児島県
59	ブラザーの森 郡上	岐阜県	122	奄美大島 真米(まぐむ)の里 秋名・幾里・大勝	鹿児島県
60	麻機遊水地	静岡県			
61	井川山林	静岡県			
62	富士通沼津工場	静岡県			
63	あさひ・いのちの森	静岡県			

第18回社叢インストラクター養成セミナーは中止いたします  
関西定例研究会は予定通り 11/18に 吉志部神社 で開催!

book book book book book book

愛しの生態系 研究者とまもる「陸の豊かさ」  
植生学会編 前迫ゆり責任編集  
文一総合出版 定価3,000円+税

本書は、日本の代表的な30地域(屋久島、富士山、佐渡島、尾瀬、春日山等)の植生について、第一線の研究者が、その特徴を紹介した本である。「植生」(ある地域や場所に生育する植物の集団)という専門的なテーマについて、これほど、平易に魅力的に解説した本を筆者は他に見たことがない。100年後にも各地域の自然を残していきたいという愛に溢れた魅力的な本である。

本書は、地域植生編と解説編の2部で構成されている。地域植生編では、6頁と限られた誌面でありながらも、各地域の植生を精選された文章、図面、研究データのグラフ等で詳解しており、専門的な知見も含めた保全のための要点が抑えられている。関連の文献情報も充実しており、初学者や関係の専門家が深く学ぶために役に立つ。解説編では、日本の植生の概要や用語解説があり初学者に配慮されている。全編フルカラーで多くの貴重な写真が付されているのも「植生」という植物の集団のあり様を掴むために効果を発揮している。

「植生」は、各地域の社叢の特徴を読み解く際にも重要な捉え方である。社叢学会の会員の皆さまや関係各位には、必携、必読の本であるとお薦めしたい。(名古屋産業大学准教授 長谷川泰洋)

## 事務局から

- 今年度の会費未納の方には振替用紙を同封いたしました。何かと多端な折とは存じますが、社

叢学会は会費で運営しております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。なお、12月末日までに入金の確認ができない場合は、「鎮守の森だより」等をお送りできなくなりますので、悪しからずご了承下さい。退会をご希望の場合は、会員番号とお名前をご記載の上、Fax・Mailでその旨、お知らせ下さい。

銀行振込も可能です。三菱UFJ銀行 京都支店 普通口座6720345 特定非営利活動法人社叢学会です。

今年度より会員証はご希望の方にのみお送りいたしております。ご希望の節はお手数ですが事務局にご一報ください。

- 下記の通り、『社叢学研究』21号への投稿を募集しています。身近な社叢での活動、社叢の訪問記(紀行文)など、楽しかった思い出、酷暑にさらされた社叢の変化など、どのようなことでも結構です。ぜひ、ご投稿ください

## 編集後記

9月からこっち、忙しかったなあ。。。って？はい、相撲とラグビーです！ 何しろ9月場所初日と日本チーム初戦がおんなじ日ですよ。すっかりテレビっ子もとい、テレビばーさんに。

中継が朝の4時からの試合は録画に頼り、ついに決勝戦！ 何とか目を覚まして始まり数分と、中間部数分と、最後に1点差の南ア優勝を見届けて、相撲巡業見物に出動！ 本場所と違って力士がのんびりモードで、両手に子供を抱きあげての写真撮影とか、まさに気は優しく力持ち。

それにしても、ラグビーのFW選手は力士級のカラダで全速ダッシュするんだもんなあ。スゴいわ。

連日、何万人もが家を追われ、泣き叫ぶ子供の映像が伝えられている中で、このお気楽さ。ちょっと反省する。。。 (藤岡 郁)

## 原稿募集中!

「鎮守の森の活動報告」(祭、音楽会、調査、ワークショップなどの実施報告、抱える問題など)や各地の「社叢訪問記」(各1,200字程度)の投稿締め切りは12月22日(金)必着です。

### お気軽にご投稿ください!

\* 書評欄では会員の皆さま方の著作を取り上げています。出版された方は、ぜひご献本下さい

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号  
TEL・FAX 075-212-2973  
URL <http://www.shasou.org> E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)